

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成27年12月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は4から10に増加。「減少した」業種は7から5に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は7から11に増加。「減少した」業種は12から8に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は2から4に増加。「悪化した」業種は10から8に減少。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は2から4に増加。「減少した」業種は12から13に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は8から10に増加。「減少した」業種は14から13に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は6から5に減少。「悪化した」業種は15から17に増加。

製造業

豆腐製造

【県内全域】

消費期限の短かったオカラを粉末状にして開発した結果、各分野で原材料として使われるようになった。

酒類製造

【県内全域】

出荷数量が前年比下回る組合員も多く、全体としては引き続き低調。高価格帯の酒の販売は好調も、一部普通価格帯が低調。

印刷

【県内全域】

景況の変化について、12月の県内組合員受注売上は、年末需要関連で若干増加した模様です。街かど景況感調査に於いて、一般市民や中小零細業者が感じている景況感は好転せず、未だデフレが完全に解消できない状況です。大手を中心に昇給さらには冬季賞与の増額等が行われ、消費マインドは多少上向いていますが、一般消費者までは回っていません。特に今年暖冬で、各店の売り上げが振るわないようです。

電気鍍金

【県内全域】

材料費の上昇等が厳しい。消費税率の変化が一年半後になったが、組合員からの声は依然として厳しい。12月の景況は今年に入り

一番厳しいとのこと。

鉄工

【千葉】

景況の変化について、足元の各社動向は、これまでと同様に特段の変動がなく、全体としては横ばい推移の状況が続いている。もちろん少数派ながら、目先好調な企業も見受けられるが、売上・収益面に苦戦を訴える企業の方が多いのが現実。

機械部品製造

【流山】

景況の変化について、特に大きな変化は見られないが、年末に向け受注が増えている業種もある。

金属製品製造

【船橋】

停滞感から、一部では悪化しているようにも感じられる。業界動向は、横ばいの状況が続く、明るさが見えない。

採石

【県内全域】

今月出荷分は先月と同様にわずかで大幅の落ち込みとなっている。今後とも、港湾整備に伴う石材の需要はあるものの、採取場の廃止などにより採取地の減少と資源の枯渇により生産箇所が限られ、需給が追い付かない状況である。

土砂採取

【県内全域】

山砂の工事が始まり、出荷量が

増加したとの報告もあるが、期待が過大であった分若干の目減りでも、落差を感じる、夏以降出荷減、先行きの見通しが不明、景気の変化が感じられないとの報告が大半。

非製造業

【総合卸売】 【千葉県・東京都】

【工業用ゴム製品】ベルトコンベアの新設・補修に伴う受注が前年に比べ少しずつ増加傾向にある。

【酒類卸】国産高級ウイスキーメーカーが生産・出荷を抑えており、品薄になっている。

【建築材料卸売】 【県内全域】

景況の変化について、暦年で年初の需要想定より40万トン以上減ることが確定的となり、会計年度では更に落ち込み幅が拡大するとみられている。

オリンピックまでは堅調と見られていたが想定外の激しい落ち込みに。又今後も内需回復の目途が立たない現状にうろたえている。

【自動車解体】 【県内全域】

鉄スクラップがわずかに反発したが景況に変化なし。

【乾物卸売】 【県内全域】

業界動向は、近年にない海苔不作が続いている。千葉県は、対前年比生産量18%、金額33%、全国

でも生産量58%、金額67%。海水温の高温が主な原因の一つのようだ。今後の巻き返しを期待したいが、かなり厳しい見通し。

【卸売】

【茂原】

暮れの歳末商戦でも、客の店への入りはあまりよくありませんが交通は相変わらず渋滞して身動きのとれない状態でした。

【電気機器小売】

【県内全域】

景況の変化について、新聞の折り込みチラシが減っている。デパートですら、毎週入っていたものが時々減らされている。

【青果小売】

【千葉市】

野菜は入荷増で安値となり、利益がとりやすかった。果物は中心的なみかんが入荷減となり一変、高価となつてしまいが悪かった。その分、いちごが安値となり売上を支えてくれた。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】

連合会を通じた中古車に関する税制の要望について、環境性課税に関する要望に対して、取得価格50万以下の中古車と商品中古車の免税が平成28年度税制改正大綱で決定しました。

【小売】

【東金】

景況の変化について、ファッ

ション関連品は、寒くならず動きが鈍く、相変わらず厳しい。日用品関連は若干ずつ上向いてきている。食品関係は、客数の伸び悩みが続いている。飲食店も客数の減少気味ではあるが、少しずつ良くなりつつある。

【小売】

【野田】

景況の変化について、クリスマスセールなどの年末商戦期間中、館内は賑わいを見せたが、前年同月比で比較すると売上の伸びは無かった。

【小売・サービス】

【柏】

景況の変化について、師走感は全く無し、平月と変わらないどころか落としている業種もある。一部業種から収益が上がらない上、周辺大型店では時給が上がって居るため、対応せざるを得なく、収益をかなり圧迫しているとの話も出ている。業界の動きについて、暖冬がもろに効いている。

【遊覧船】

【鴨川】

景況の変化について、12月は天候に恵まれ、欠航が3回（前年同月8回）にとどまり、乗船人数は前年同月比で約151%の伸びと比で約152%の伸びとなった。

【一般廃棄物処理】

【千葉】

前月並びに前年同月と比べると想定通り、良い結果となりました。平成27年に全体を通じて安定した年になったと思います。

【土木建築サービス】

【県内全域】

第二四半期のGDP改定値が、民間企業の設備投資が大幅に上振れたことにより、速報値（▲08%）を+1.0%と好転させたものの、日本経済の実力である潜在成長率が0%台と低いこともあり、景気は「依然足踏み状態」との見方が多い。

【建設】

【県内全域】

12月の落札額は、対前月比増加6地区を過半の地区で増加した。第3四半期終了時点では、対前年同月比約10%弱増加となった。但し、約8%減少している件数が懸念される。

【貨物運送】

【野田】

景況の変化について、燃料代が下がっているので一息ついているが、最近の中東情勢をみると今後の燃料費の動向が気になる。

【輸出入】

【県内全域】

景況の変化について、12月の売上は前月比、前年同月比とも11月より減少しております。景気の良いなっているとは思えません。